

服部緑地

■ 主要施設(1) 特殊庭園

◆ 特色

○都市緑化植物園

- ⇒昭和58年(1983年)に開催された第一回全国都市緑化フェアに合わせ、都市緑化の普及・啓発を目的として開設された。
- ⇒四季の変化に富んだ美しい景観を有する上質なみどり空間として、高度な管理を実施するとともに、イベント、展覧会、講習会を開催する。

○円形花壇

- ⇒昭和34年に上皇上皇后両陛下(当時皇太子・皇太子妃殿下)御成婚記念事業として整備された直径約150mを誇る服部緑地のシンボルとなる施設。
- バラ園や噴水花壇など季節の花々が楽しめる。

■ 主要施設(2) プール

◆ 特色

○緑の芝生と松林の中でくつろげるリゾート風のプール

- ⇒年間約10.4万人(直近3ヶ年平均)が利用する人気のプール。
- 場内には、流水プール、スライダー、幼児用プール、なぎさプールの4種のプールがあり、多様な楽しみ方を提供しており、多くの木々が植えられ、緑の中で水遊びが楽しめる。
- ⇒プール開設期間外については、フィッシングパーク(釣り堀)として有効活用している。

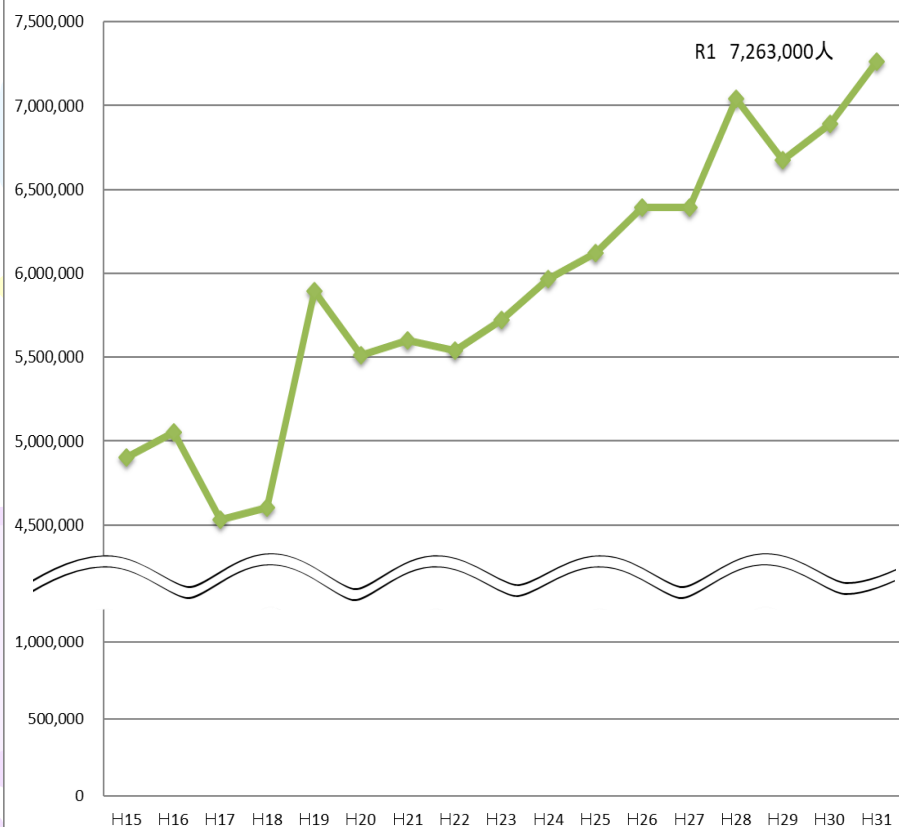


服部緑地

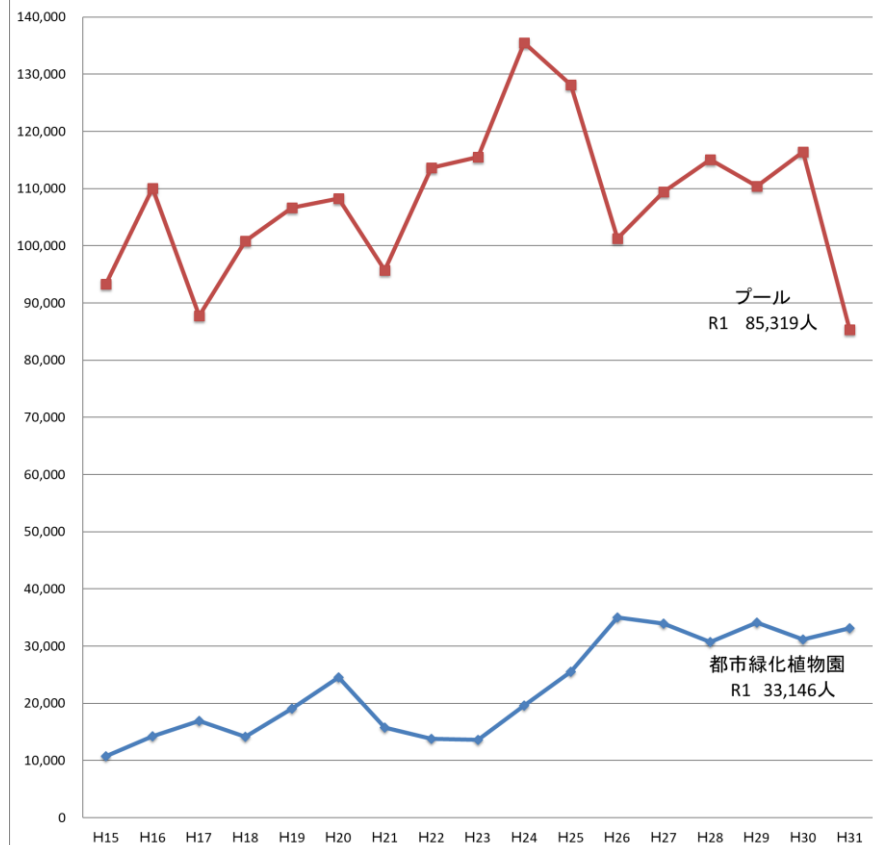
■利用状況

- 令和元年度は、19の府営公園全体の利用者約2432万人の約3割に相当する約726万人が服部緑地に来園。指定管理者制度導入後、右肩上がりに上昇。
- 都市緑化植物園は約3.3万人、プールは約8.5万人が来園。

来園者数の推移



主要施設の使用件数の推移

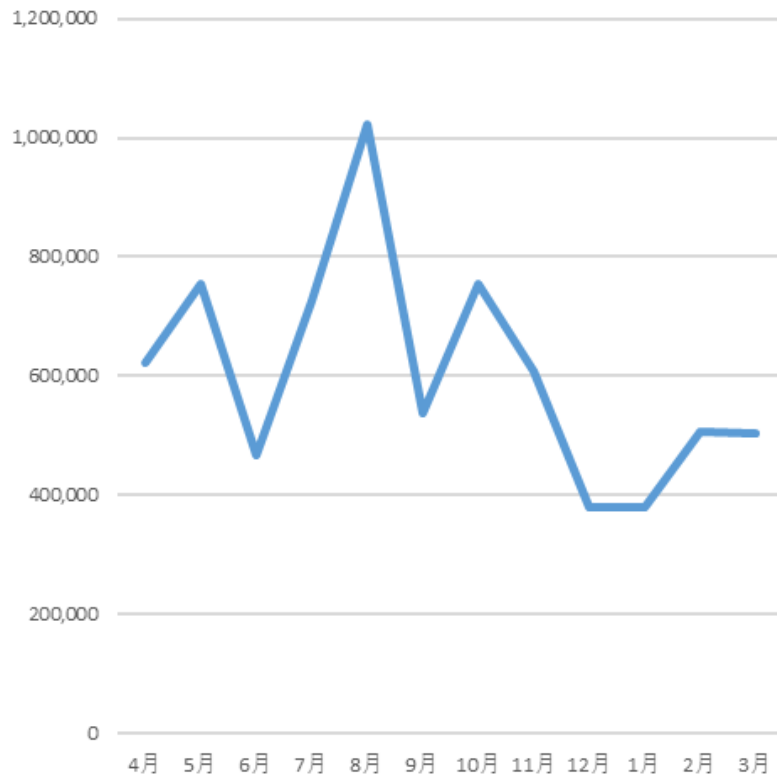


服部緑地

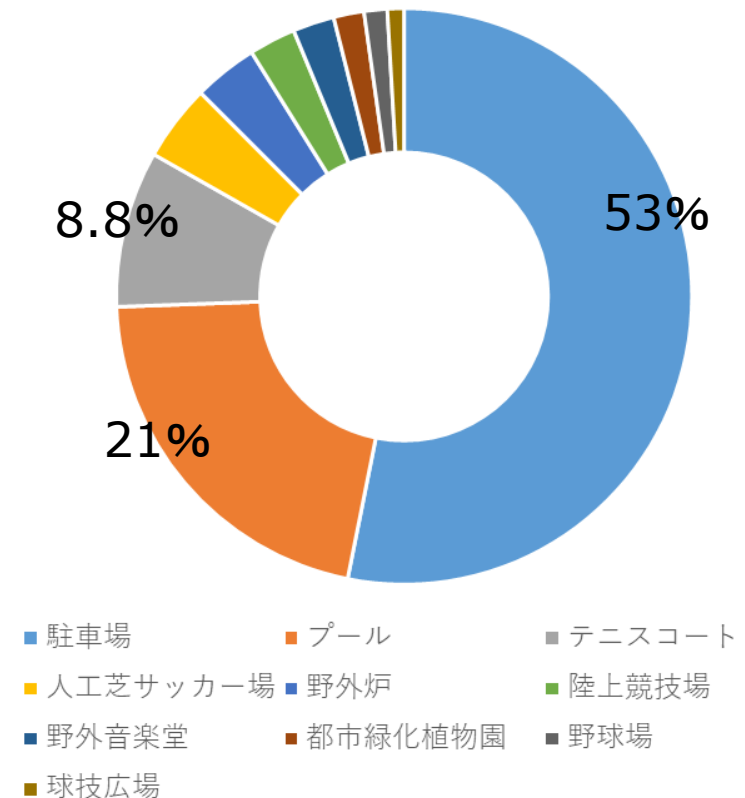
■利用状況

- 利用者の月別推移では、プール開園時期に服部緑地の利用者数がピークに達している。
- 利用料金対象施設の年間収入の内訳では、駐車場(53%)、プール(21%)、テニスコート(8.8%)の順となっている。

令和元年度 利用者数月別推移



令和元年度 利用料金施設 収入割合



服部緑地

■公園の管理上の課題

◆草地管理・芝生地管理・樹木管理

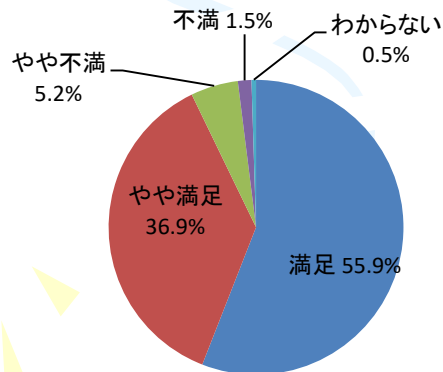
- 広大な園内一円において、年間を通じて美しい景観を維持できるよう、維持管理を行う。
 - ⇒府営公園最大の敷地を、ゾーンごとの特徴に応じた管理運営を行う。
 - ⇒府営公園最多の利用者が、安全安心に利用できるよう、園内樹木の剪定を適宜行い、事故の未然防止に努める。
 - ⇒道路や住宅地に近接している高川・天竺川沿いの松については、十分に安全を確保するとともに、風致地区として美しい景観を維持する。
 - ⇒千里丘陵の竹林の美しい景観を維持する。

◆施設管理

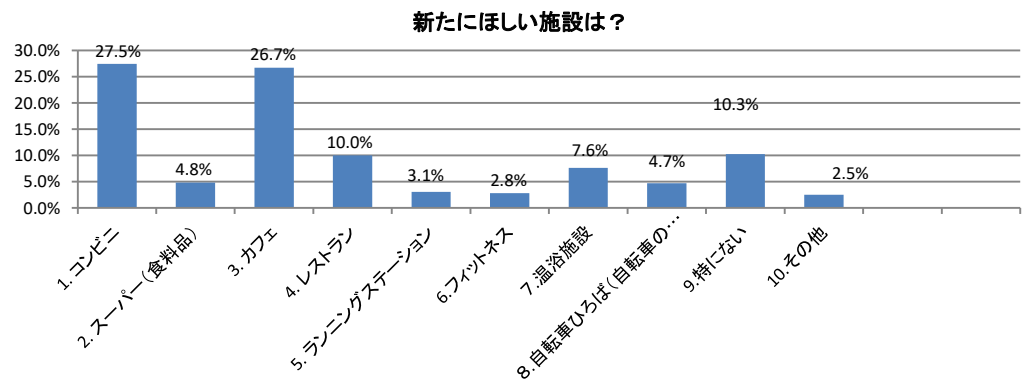
- スポーツ施設、レジャープール、BBQ施設、野外音楽堂、植物園、遊戯場等、多種多様な施設の運営・維持管理が求められる。

■公園満足度調査結果(令和2年度実施)

○公園の全般的な満足度



○新たに欲しい施設



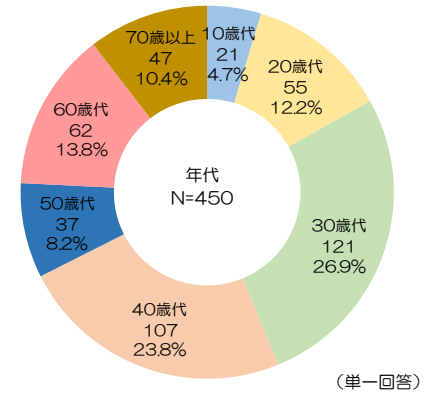
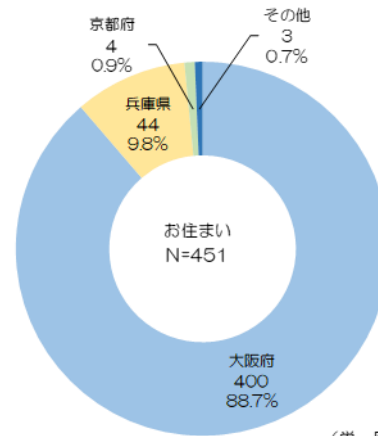
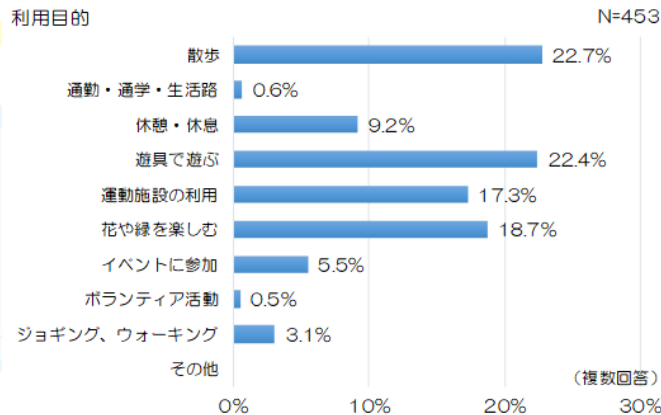
服部緑地

利用者特性(服部緑地マネジメントプラン基礎資料より抜粋 ※平成30年度満足度調査結果)

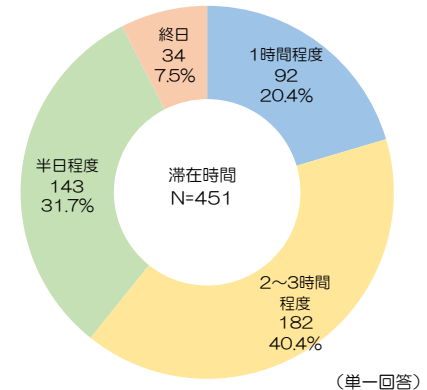
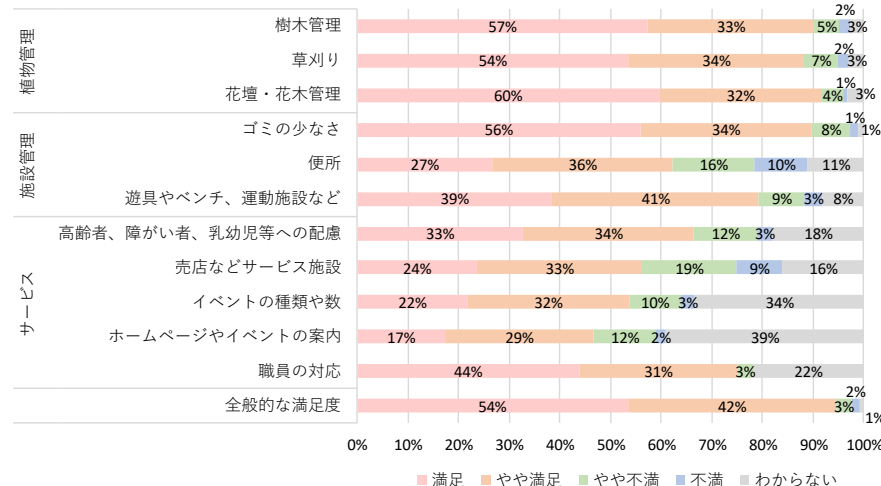
散歩や遊具の使用を目的とした利用が多く、幅広い年齢層からの利用がある。利用者の約9割は府内からの利用となっており、滞在時間が半日程度以上の長時間滞在者が約4割みられる。

服部緑地の満足度としては、植物管理の満足度は高いが、便所や売店などのサービス施設、イベントの種類や数、その案内などについては、満足との回答が3割を下回る。

利用目的



利用者の満足度



浜寺公園

■概要

明治6年12月、太政官布達により日本で最も古い公園の一つとして開設。白砂青松の美しい公園であったが、第二次大戦後に米軍に接收され一時は公園機能を失う。昭和33年の返還後、埋立地の整備とともに公園の再整備が行われ、概ね現在の形が完成した。昭和44年、泉北臨海緑地の整備が完了し、浜寺公園と一体的に府が管理することとなった。

■開設面積：75.1 ha（泉北臨海緑地含む）

■開設年月：明治6年12月24日

■立地特性



■主要施設



浜寺公園

■ 主要施設(1) ばら庭園

◆特色

○H3年に開園。日本の山野の原風景の中にバラをデザインした、他に例を見ないコンセプトの回遊式庭園。

※H18年世界バラ会議大阪大会 コンベンションツアー会場に選定

○府営19公園を代表する施設の一つで、野生種から現代種まで約400種、6,000株のバラが咲き誇っている。

○庭園内では、案内ボランティアも活動し、きめ細かなPRにも努めている。



■ 主要施設(2) プール

◆特色

○砂浜の埋立に伴い閉鎖となった海水浴場に代わる施設として、S38年に完成。当時は東洋一と言われたプール群であった。

○スライダーのある変形大プールや変形小プール、50mプール1面、25mプール3面等があり年間10万人弱の利用がある

○現在、大規模リニューアル工事を進めており、R2年度の変形大プール改修に続き、R3年度には流水プールのオープンによる、全面リニューアルオープンを予定。



浜寺公園

■利用状況

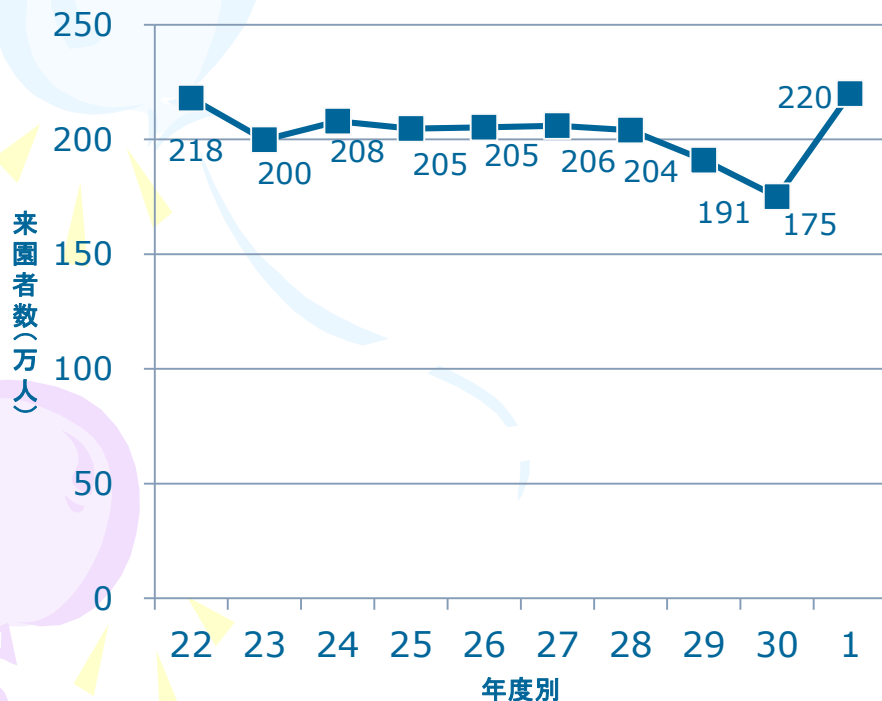
○年間約200万人の来園者数

ばら庭園の見頃である5月の利用が特に多く、約40万人/月の利用がある。

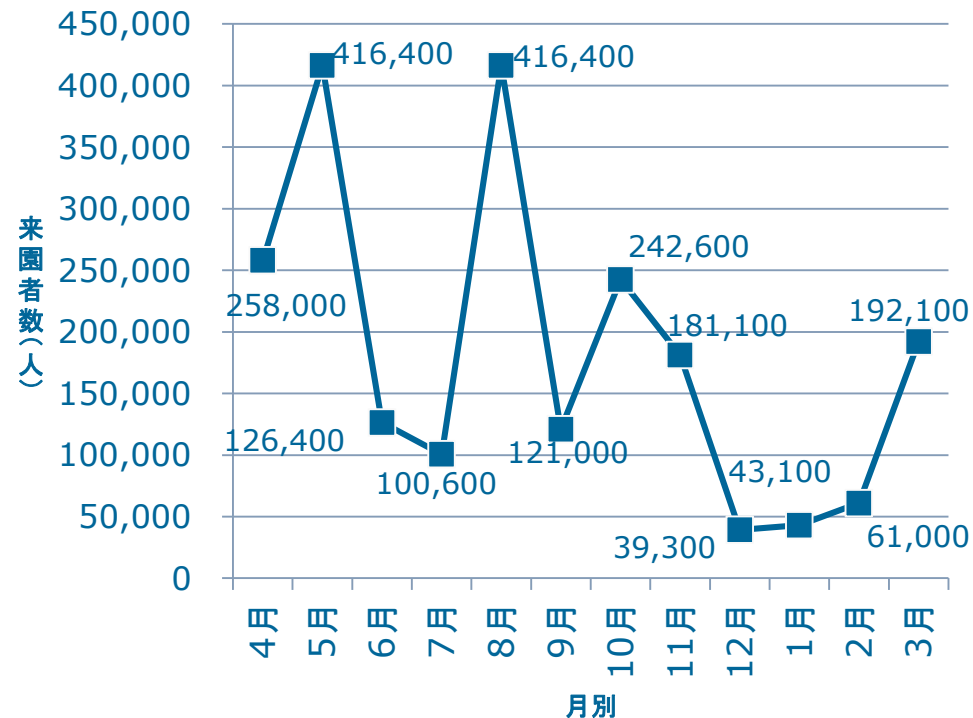
※H30年度は台風による園内閉鎖などがあり、利用者数が減少

※R2年度はコロナにより運動施設が閉鎖(4/8～5/15)

来園者数の推移(年度別)



来園者数の推移(R1年度:月別)



浜寺公園

■ 公園の管理上の課題

◆ 松林の景観形成

- 歴史ある松林の景観保全・再生が必要
- 台風被害や害虫による影響で松枯れが発生
⇒ 薬剤散布や樹幹注入による害虫防除や、エアレーションによる土壌改良を実施

◆ 泉北臨海緑地の活性化

- 本体側と浜寺水路で隔てられており、本体側とのアクセス手段がなく、回遊性が乏しい。そのため来園者が少なく、活性化の検討が課題。

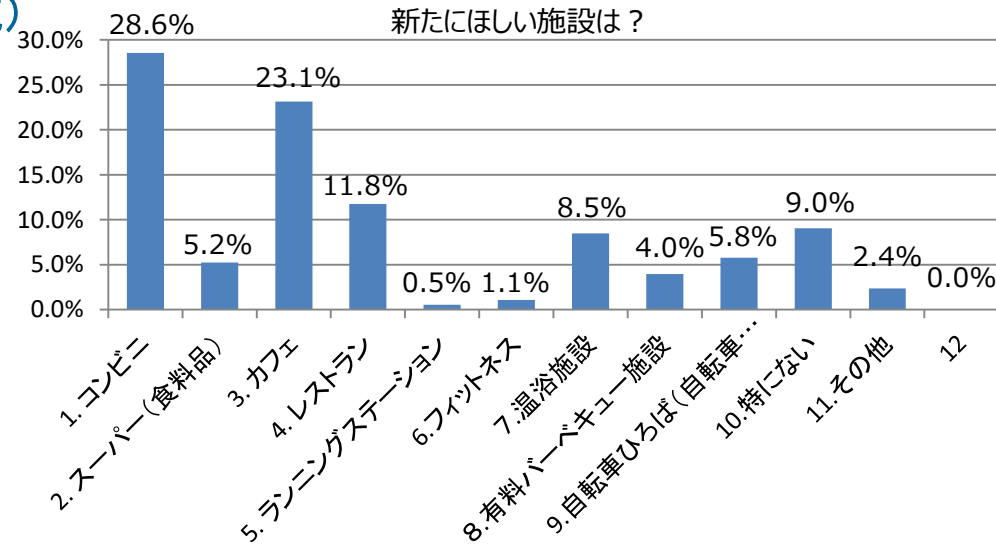
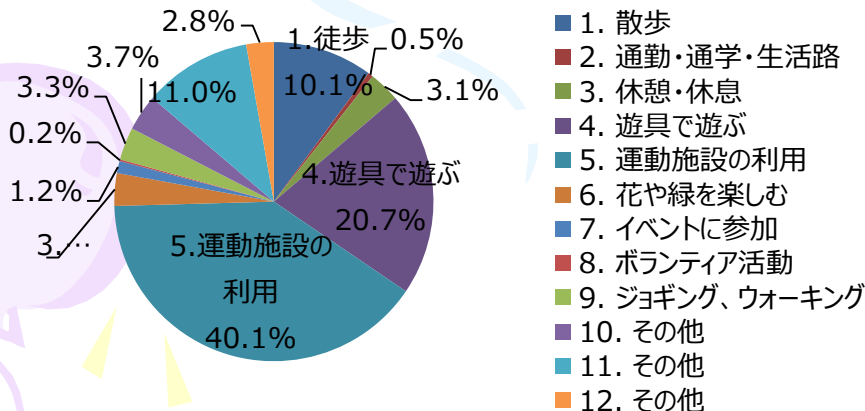
◆ 公園利便性の向上

- バリアフリー化の推進(園内入口の車止め解放等)
- 自転車利用者のマナー啓発(スピードの出し過ぎ等)



■ 公園満足度調査結果(令和2年度実施)

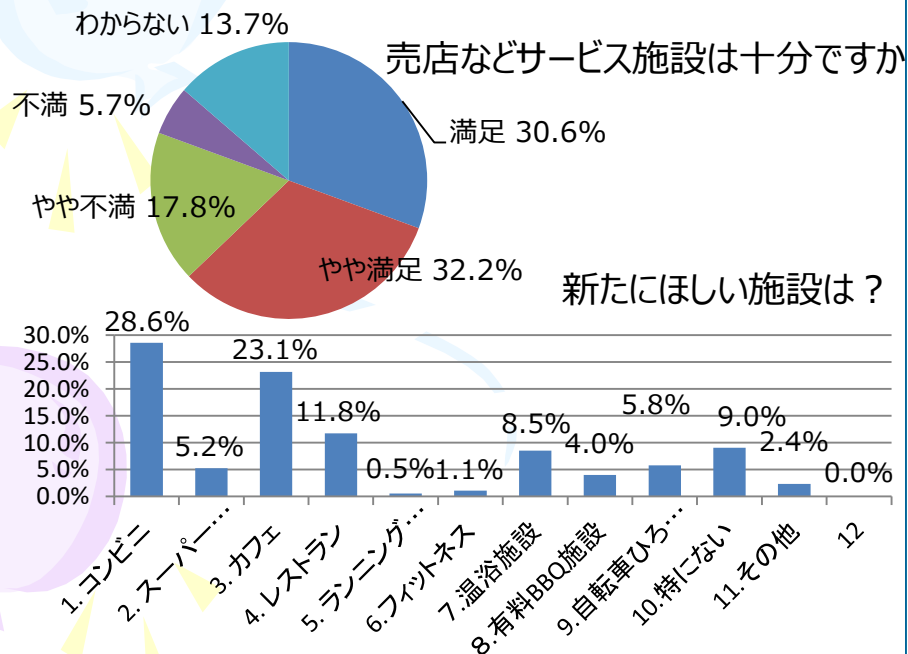
○ 公園の利用目的



浜寺公園

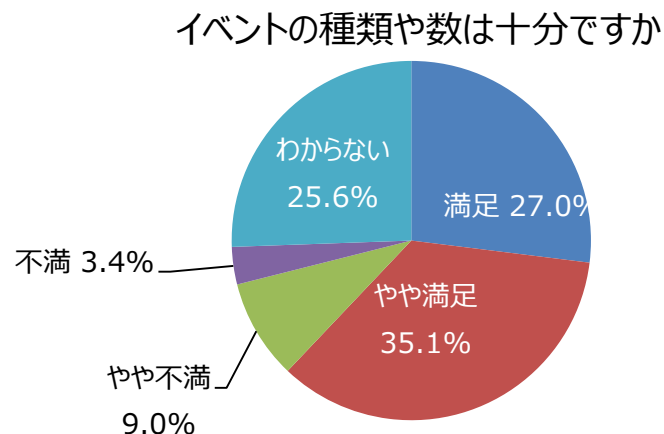
■ レストハウスの現状や課題

- ◆ メインエントランスに位置するレストハウスは、売店兼食堂の機能を持っていたが、老朽化のためR2年度で営業を終え、R3年度に解体予定のため、跡地の活用が課題となっている。
- ◆ R2年度の公園満足度調査でも、売店などのサービス施設のニーズが依然高く、新たな飲食機能の誘致が求められている。
- ◆ H30年度にコンビニがオープンしたが、広い園内でのニーズにはこたえきれておらず、特にカフェやレストランといった需要が高い。



■ 賑わい創出ゾーンの現状や課題

- ◆ 賑わい創出ゾーンは、メインエントランスや最も利用の多い第三駐車場、プールなどの主要施設が位置する公園の中心となるエリアであり、イベントの多くはこのエリアに集中している。
- ◆ このゾーンの顔となるメインエントランスでは、R3年度から大規模な噴水・親水施設の整備を予定しており、プールの全面リニューアルオープンと合わせて、府による大規模な施設の充実を図っている。
- ◆ ゾーンの運営方針である「駅周辺地域一体となって賑わいを創出し公園の中心となるゾーン」の実施に向け、夜間利用やプールの通年利用などの利用促進や、地域との連携などによる新たな公園のあり方が求められている。



二色の浜公園

■ 概要

当公園は、昭和初期から海水浴場として賑わっていた貝塚市の海岸部に位置し、昭和25年に都市計画決定されました。児童遊戯場や芝生広場、休憩所、展望台等の施設整備がされ、昭和26年に開設しました。平成12年には海浜緑地を開設し、水上オートバイ等のマリンスポーツが楽しめる施設が充実。海洋レクリエーションの拠点として府民に親しまれています。

■開設面積：41.1 ha

■開設年月：昭和26年6月

■立地特性

■主要施設



二色の浜公園

■ 主要施設(1) 松林

◆ 特色

○昭和62年、(社)日本の松の緑を守る会により、21世紀に引き継ぎたい「日本の白砂青松100選」に選ばれた、美しい松林があります。

○白砂青松の地として古くから親しまれており、このクロマツ林を歴史的資源ととらえ、その姿を後世に継承すべく、長期的な育成管理が求められます。

○松枯れ被害防止を目的とした薬剤散布や、冬の風物詩にもなる「こも巻き」による外注防除を行うとともに、被害木が発生すれば焼却処分を実施しています。



■ 主要施設(2) 水上オートバイ施設

◆ 特色

○国内では数少ない公的な水上オートバイの専用施設を備えており、水上オートバイの全日本選手権や関西地区大会などの会場にもなっています。

○水上オートバイの体験試乗会など、マリンスポーツの楽しさや安全な楽しみ方を知ってもらうためのイベントが開催されています。

○水上オートバイの登録制度の導入や海上監視員の配置など、水上オートバイを安全に利用いただける取り組みを実施しています。



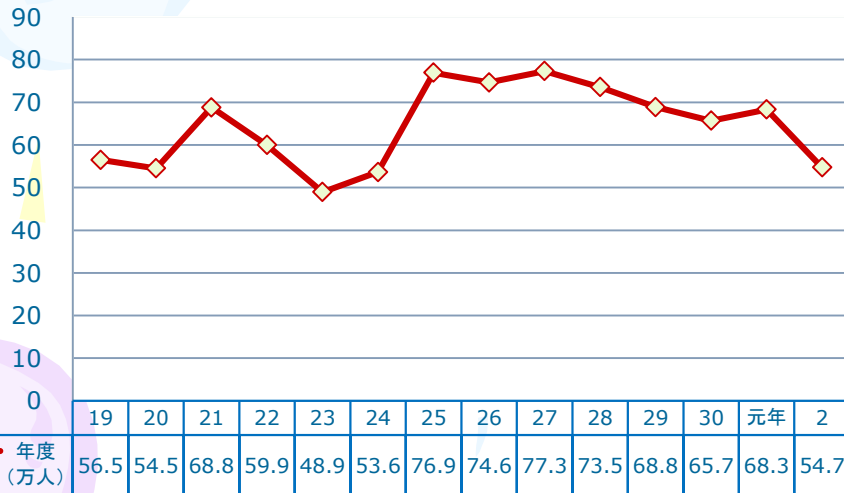
二色の浜公園

■利用状況

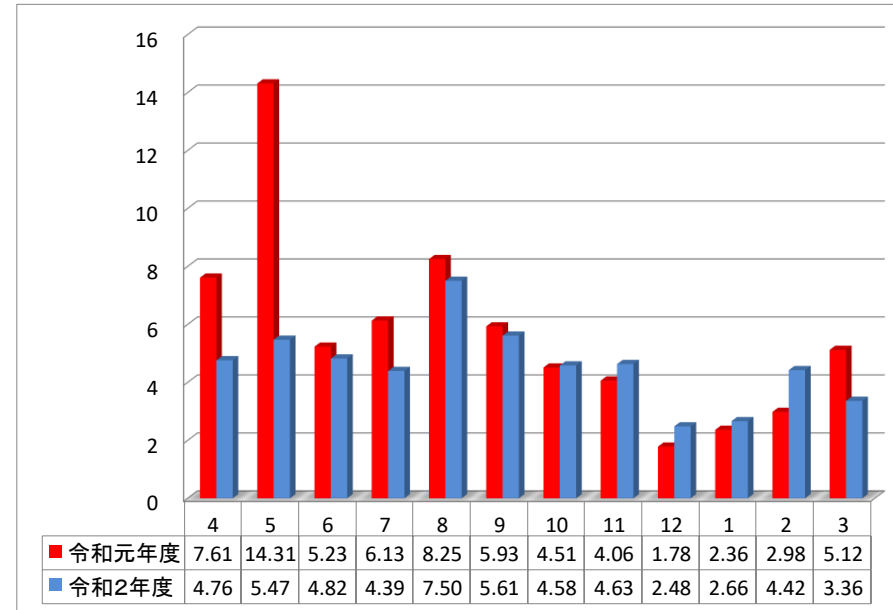
○令和元年度は、約68万人が来園。令和2年度は54万人が来園されました。

○月別では、バーベキュー等の利用が多い5月が特に多く、次いで海水浴のある8月の利用者が多くなります。（※令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、無料BBQの閉鎖、GW中の駐車場閉鎖があり）

年間来園者数の推移
(二色の浜公園)



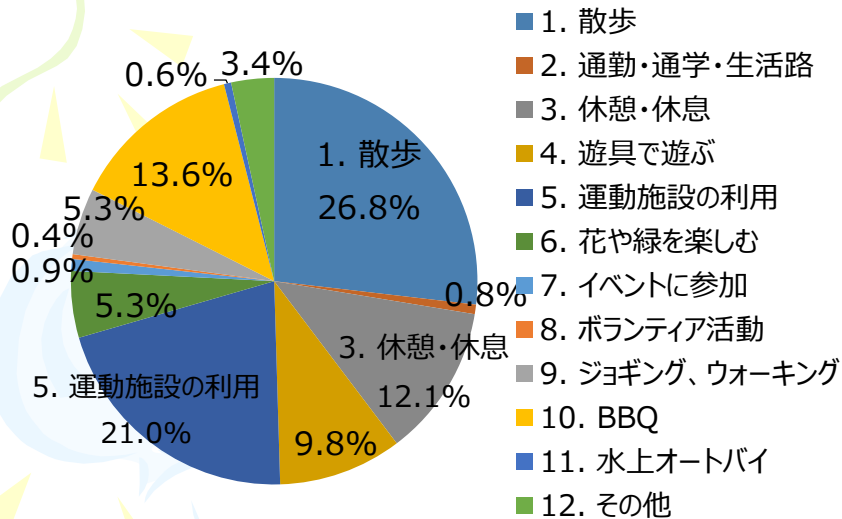
来園者数(万人)



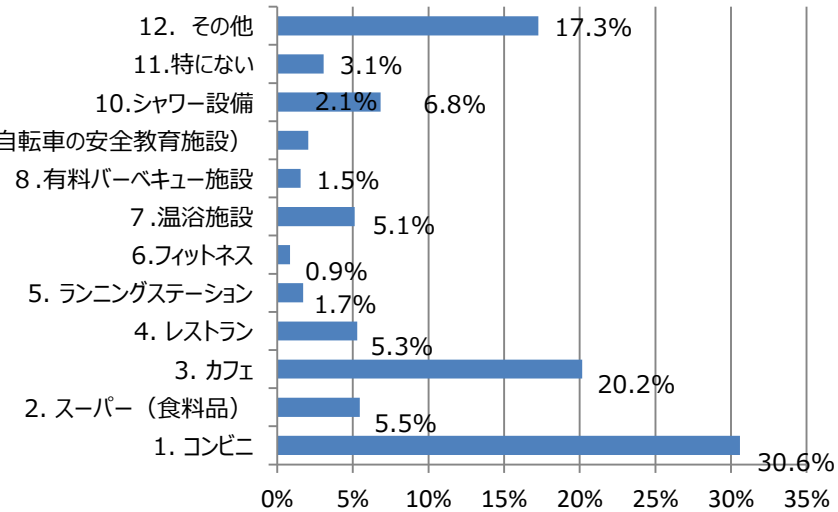
二色の浜公園

公園満足度調査結果(令和2年度実施)

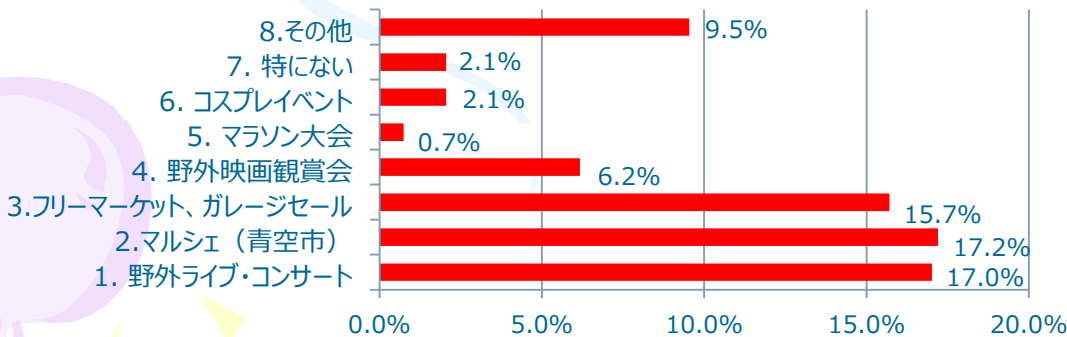
○公園利用の目的



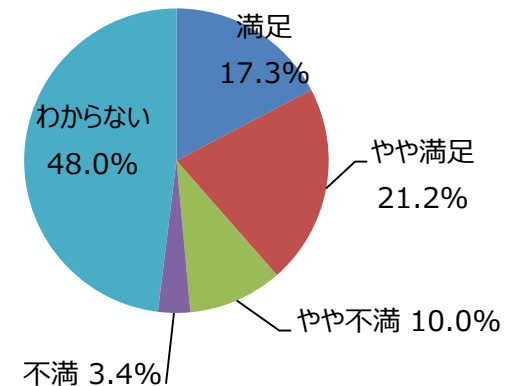
○新たにほしい施設は？



○あったらよいイベントは？



○イベントの種類や数は十分ですか？



二色の浜公園

■ 公園の管理上の課題

- ◆夜間の利用者による騒音対策として、夏期(7月1日から9月第1日曜日)に夜間閉鎖(午後10時から翌朝午前5時まで)を実施しているため、公園の一部エリアの利用に制限があります。
- ◆沢地区、脇浜地区、海浜緑地とエリアが3地区に分散しており、公園利用上も公園管理上も課題となっています。回遊性の確保に加え、効率的な管理に向けた取組みの検討が求められます。
- ◆海浜緑地においては、周辺における交通渋滞等が多く発生しています。

■ 自然・海洋レクリエーションゾーンの現状や課題

- ◆散策や遊び場としての利用とともに、春から秋にかけて潮干狩りや海水浴、BBQなどの多くの利用があります。
- ◆冬季は利用者が少ない状態が続いています。
- ◆多様なイベントの実施や既存施設の有効活用等の取組みが期待されています。

■ 賑わい創出ゾーンの現状や課題

- ◆マリンスポーツシーズンを中心に来園者は増加傾向にあります。
- ◆一方、冬季はマリンスポーツやBBQの利用者が減少するため、利用者が少ない状態が続いています。
- ◆賑わい創出ゾーンの運営方針は、「多様なアクティビティを楽しむことができるゾーン」としており、様々なイベント等によるアクティビティの体験などにより、賑わいを創出する取組みが求められております。

公園全体の課題

閑散期にどのような利用促進を講じ、にぎわいを創出するか